

## 国際理解セミナー「フランス」を実施しました。



11月10日（土）ジェフリー鈴鹿にて、三重日仏協会副会長の井土 真杉<sup>いづち ますぎ</sup>さんを講師に迎え、「コレがフランス？ ～四半世紀の交流から見たフランスの姿～」を21名の方にご参加いただき開催しました。

井土さんは、大学でフランス文学を専攻され、放送局にお勤めになる傍ら、三重日仏協会の立ち上げから運営に関わられてきました。日仏協会は、全国に約50団体あり、地域に応じた交流をしているそうです。三重県には、フランス人は少ないですが、みなさん男性で奥さんが日本人という方が多く、フランス人の日本人に対する関心は大きいのではないかと感じられているそうです。

まず初めに、フランスをイメージしてもらうために、歌を4曲聞いていただきました。

まず初めに、フランスをイメージしてもらうために、歌を4曲聞いていただきました。

①	フランス国歌	ラ マルセイエーズ
②	古いシャンソン	さくらんぼの実る頃
③	戦後のシャンソン	マドモワゼル パリ
④	最新のフランス音楽	私の望み (Zaz)

次に、訪仏して驚いたことを話していただきました。井土さんの初訪仏は、1976年だそうです。最初、フランスに着いたらすごい暑さだったそうです。次の日の新聞に210年ぶりの猛暑と書かれおり、そんな古い時代から記録が残っていることにびっくりされたそうです。そのほかにも、

- ・カフェでは、水やおしぼりが出てこない。
- ・電車の放送は、必要最低限のみで、注意して聞いていないと間違えそう。
- ・トイレがとても少なかった。
- ・外国人の私に道を聞くフランス人がいた。

といった経験をされたそうです。

旅の目的の1つだった作家ロマン・ロランの墓参りのため、ブルゴーニュへ行く列車に乗ってパリを出ると、郊外には大きな畑が広がっていて、駅のある小さな町には必ず教会があったそうです。フランスは平坦な国で農業に適しているため、ヨーロッパの中でも1番の大農業国です。因みに、高速鉄道TGVをつけるために立ち退いた農家は6件だけだったといった逸話もあるそうです。パリも美しいが、田舎には、中世からの街並みがあるまま残っていてとても美しいそうです。景観については、シャトーヌフ（ブルゴーニュ地方）の映像を見ながら考えました。シャトーヌフに住む人たちは、だれから押し付けられたわけでもないけれど、オークルという赤土を練って作った



塗料で窓枠を塗ることを自分たちで決めているそうです。昔から、町が合併しないので、地方自治体は、約 36,000 とたくさんあり、自分たちで様々なことを決めてきたという歴史があるそうです。

古いものを大切にしながら、新しい芸術を発信してきているのがフランスで、あのエッフェル塔を建てる際に、建設に反対の芸術家モーパッサンは、レストランでご飯を食べる際にエッフェル塔を見たくないの、塔の見えないエッフェル塔の中のレストランで食事をしたという笑い話も教えてもらいました。

井土さんの娘さんは、結婚式をブルゴーニュでした際、レストランで働くギャルソンの姿を見て、そのかっこよさに見とれてしまったそうです。どのくらいかっこ良いのかイブモンタンの「ギャルソン！」という映画の冒頭で紹介されました。日本でも古い街に行けば職人さんがいますが、フランスの職人氣質は少し違うようで、自分の仕事に誇りを持ち、ギャルソンという仕事を一生の仕事にする人もたくさんいるそうです。

フランスに行って困ったことは、日曜日は、お店がほとんど閉まっていたそうです。カトリックの習慣と言えればそれまでですが、最近は、小学校は週 3 日休みのところも出てきていて、学校では知育、家では徳育に取り組む風潮があるそうです。休日・バカンスについて、「マルセルの夏」という映画で、1900 年の時代設定で南フランスの先生一家のバカンスのためマルセイユからプロバンスへ 1 ヶ月出かける部分を紹介してもらいました。自然と町のコントラストが本当にきれいな映画でした。最初は先生や一部の富裕層だけが特権としてバカンスを取っていたそうですが、その後、労働者にも広がりほとんどのフランス人が 1 ヶ月以上の休みを取るようになったそうです。これは、有給休暇を権利として勝ち取ってきたという思いがあるからだそうです。

フランス人は、自己主張が強い人が多いと感じられた経験で、昔小さなホテルに泊まった時、シーツを変えてもらえる日に変えてもらえずフロントで「どうして変えてもらえないのか」と質問しても「しらない」と言われたそうです。後で考えると「どうして？」と聞いたから「そのことは、知らない」と対応されたのだと気づいたそうです。日本ではこんな対応はありえませんが、「こうだから変えてほしい」と言わないといけないというのがフランスでは当たり前なんですね。220 年前に人権宣言し、権利を勝ち取ったという思いが強いのが自己主張につながっているとのことでした。

また、高校生や警官もデモをするそうです。日本では、迷惑なものや捉えがちなデモやストがフランスで多いのも、権利意識の表れだそうです。

休憩タイムには、ドミニクドゥーセ鈴鹿本店さんにご協力をいただいたラスク&シナモンスティックと紅茶をご賞味いただき、大好評でした。

最後に、フランス人の国歌に対する意識について、古いアメリカ映画「カサブランカ」で、モロッコの酒場でドイツの将校がドイツの軍歌を歌っていたところ、客が ラ マルセイユズ を歌う部分を見ました。

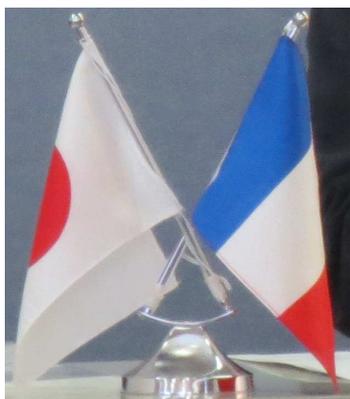


この勇ましい国歌も今では、人気がないそうです。三重日仏協会で会合を持ったとき、フランスの若い人が、社会の流れに合わせ、歌の歌詞を変えるべきだと言われていたそうです。これは、日

本の「君が代」問題と似通っている部分がありますね。

参加された方から、西玉垣出身で日本文学のフランス語への翻訳をされていた「故石邨 幹子さん」をぜひ日仏協会や、国際交流協会で紹介してもらいたいというご意見をいただきました。ご寄稿いただけましたら、協会ニュース等でも紹介したいと思います。

井土様、ご参加された皆様、ドミニクドゥーセ様、ありがとうございました。



今回井土さんには、歌や映画を交えながら、体験談とリンクさせて話していただきました。ワンシーンだけの紹介になってしまった映画も全体を通してみるとまた違うことに気づくのではないのでしょうか。最後に講座が終わってからもフランスを楽しんでいただこうと、市内でフランス料理を楽しめるお店の紹介を協会で作成し配布しましたので、こちらにも添付します。各お店の特徴があるので、鈴鹿市でフランス気分を楽しんでみてはいかがでしょうか。

## 鈴鹿市内のフランス料理関連のお店

店名	ドミニク ドゥーセの店 鈴鹿本店	シェ・ママン (chez maman)	西洋軒 (セイヨウケン)	ビストロ カノン (CANON)
TEL	059-388-2492	059-388-3001	059-387-3170	059-370-5033
住所	三重県鈴鹿市南江島町 17-30	三重県鈴鹿市東磯山 3-3-19	三重県鈴鹿市岸岡町 3096-23	三重県鈴鹿市住吉 5-11-21
営業時間	ドミニク ドゥーセの店(1階) 月～土 10:00～20:00 日 8:30～20:00 カフェラウンジ(2階) 平日 11:00～18:00 土・日・祝 8:00～18:00 朝食営業、ランチ営業、日曜営業	[火～土] 11:30～14:30(ラストオーダー14:00) 17:30～20:30(ラストオーダー20:00) [日] 11:00～15:00 ランチ営業、日曜営業	11:30～14:00(オーダーストップ 13:30) 17:30～21:00(オーダーストップ 20:00) ランチ営業、日曜営業	11:30～14:00 17:30～22:00 ランチ営業、日曜営業
定休日	なし(1月1日、2日は休業)	月曜	月曜日	月曜日
地図				
備考				 メニュー等が見られます。